

大使コラム（2012 年 3 月）

3月、リスボンの春は、だいぶ近づいて来たようです。イベリア半島で多く見かけるアーモンドの木は、例年ポルトガルでも1月に南部のアルガルベ地方で咲き始め、徐々に北上してリスボンでも2月に盛りを迎えます。花の様子や枝振りが日本の「そめいよしの」に似ていて、一斉に咲いたアーモンドの花は、少し早めですが今年も日本の春を思い出させてくれました。

女子サッカーのアルガルベ・カップで、昨日なでしこジャパンが初戦を飾ったのは、嬉しいニュースでした。

先月も引き続き暖かい快晴の日が多かったのですが、月末にはテージョ川に濃霧のかかる朝もありました。船が霧笛で安全を確認しながら川を進む様子は、リスボンの冬の風物詩の一つと言っても良いでしょう。

かつて16世紀の中葉、日本にまで到達したポルトガル人達は、多くがここから出港しています。東洋進出の過程で、ポルトガルの船舶はインド、中国、日本だけでなく、多くのアジア諸国と接触しました。当地で行われた昨年の韓国とポルトガルとの国交樹立50周年の記念行事でも、16世紀の両国の接触の歴史が語られました。また、先月には、タイとポルトガルとの国交樹立500周年の記念行事にタイ王室の王女殿下がご来訪されるなど、両国の歴史的関係の深さを印象づける行事もありました。また、インドネシア大使によれば、インドネシア語に葡語が起源の単語が2000以上もあるそうです。改めて、ポルトガルとアジアとの強い歴史的関係を感じます。

さて、今月で東日本大震災から1年になります。未曾有の大災害に遭遇しても、秩序を保ち相互に協力して復興に立ち向かう日本人の姿は、ポルトガルを含め、世界中の人々に強い印象を与えました。厳しい状況であるが故に、日本的な価値感が見直され、国外からも日本への同情と評価が見られました。

今月11日の一周年記念日には、大使館でも当国の方々からこの災害の際に受けたご協力や励ましに感謝し、災害の実情と復興の努力などについて知っていただくための写真展を開催する予定です。また、1755年の大地震と大津波の経験を持つリスボンにおいて、この機会に、自然災害への備えを共に考えるセミナーを両国の専門化を招いて開催します。（詳細は下記ご参照。）自然災害への対策の面でも両国の協力関係が深まり、双方の社会にとって意味のある交流が出来ればと願います。

他方、この国の財政問題について、先月行われたトロイカ調査団の査定結果は当国政府の努力を評価するもので、今期の財政支援も行われる見込みです。しかし、国内だけでなく欧州などの景気低迷は増税努力の効果を削減しつつあるようにも見えます。さらに、1月の長期国債の格付け引き下げ以来、右国債の利率が高止まりしていることで、政府支出の削減努力にもかかわらず、今後の債務支払いが再び財政を圧迫

していくとの懸念は増大しています。当国の国民が緊縮財政の負担に耐える姿は印象的ですが、今後の状況は決して容易でないかもしれません。引き続き動向を注視していきたいと思っています。

時節柄、皆様にはご自愛のほどをお祈り申し上げます。